

1. 件 名：新規制基準適合性審査に関する事業者ヒアリング（女川原子力発電所2号炉工事計画）（78）
2. 日 時：令和3年3月1日 13時30分～16時40分
3. 場 所：原子力規制庁 8階A会議室（一部TV会議システムを利用）
4. 出席者：（※ TV会議システムによる出席）

原子力規制庁：

（新基準適合性審査チーム）

江崎企画調査官※、三浦上席安全審査官、植木主任安全審査官、  
藤原主任安全審査官、小野安全審査専門職※、土居安全審査専門職、  
谷口技術参与

東北電力株式会社：

原子力本部 土木建築部 副部長、他1名

原子力本部 土木建築部 部長、他6名※

## 5. 要 旨

- （1）東北電力株式会社から、女川原子力発電所2号炉の工事計画補正申請のうち、地下水低下設備の耐震性について、提出資料に基づき説明があった。
- （2）これに対し、原子力規制庁は以下の点について指摘等を行うとともに、今後、説明内容について引き続き確認することとした。

<地下水位低下設備の耐震計算の方針>

- 既設揚水井戸を管路として評価しないことについて、既設揚水井戸の改造方法及び基準地震動 $S_s$ に対する設計の考え方を整理して説明すること。

<地下水位低下設備接続柵の耐震性についての計算書>

- 接続柵の各部位について、ヒューム管との接合部及びヒューム管の構造仕様を整理した上で、接合部上の境界条件等の設計の考え方を説明すること。

<地下水位低下設備揚水井戸の耐震性についての計算書>

- 揚水井戸の隅角部の配筋の状況について、集水ピット壁部の縦筋がR— $\theta$ 配筋、底版がX—Y配筋であることを踏まえて施工可能であること

とを説明すること。

＜地下水位低下設備の耐震性に係る補足説明資料＞

- 鋼管について、掘進等の施工方法に対する解析モデルの適用性を説明すること。
- ヒューム管及び鋼管について、地盤の地震応答特性や部位の損傷モードを整理した上で、荷重設定の考え方を説明すること。
- 揚水井戸について、接続開口の箇所が耐震評価に及ぼす影響を説明すること。
- 地盤ばねの設定について、根拠としている規格・基準の適用範囲を踏まえて、考え方を説明すること。

(3) 東北電力株式会社から、(2) について了解した旨の回答があった。

なお、本面談については、事業者から対面での面談開催の希望があったため、「新型コロナウイルス感染症対策に係る原子力規制委員会の対応の一部変更について」(令和2年6月24日 第12回原子力規制委員会配付資料)に基づき、一部対面で実施した。

## 6. その他

提出資料：

- (1) VI-2-13-1 地下水位低下設備の耐震計算の方針(02-E-B-19-0069\_改0)
- (2) VI-2-13-2 地下水位低下設備ドレーンの耐震性についての計算書(02-E-B-19-0070\_改0)
- (3) VI-2-13-3 地下水位低下設備接続柵の耐震性についての計算書(02-E-B-19-0071\_改0)
- (4) VI-2-13-4 地下水位低下設備揚水井戸の耐震性についての計算書(02-E-B-19-0072\_改0)
- (5) 補足-600-25-2 地下水位低下設備の耐震性に係る補足説明資料(02-補-E-19-0600-25-2\_改0)
- (6) VI-2-13-5 地下水位低下設備揚水井戸の地震応答計算書(02-E-B-19-0073\_改0)
- (7) VI-5-32 計算機プログラム(解析コード)の概要・SLAP(02-E-B-22-0039\_改0)(令和3年2月25日提出資料)
- (8) VI-5-37 計算機プログラム(解析コード)の概要・TDAPⅢ(0

- 2-エ-B-22-0044\_\_改0) (令和3年2月25日提出資料)
- (9) VI-5-61 計算機プログラム(解析コード)の概要・FRAME(面内)(02-エ-B-22-0068\_\_改0) (令和3年2月25日提出資料)

以上